

東京藝術大学 グローバルサポートセンター 特別講義シリーズ

グローバルアーティストのためのリベラルアーツ #2

「アジア人」と 「クラシック音楽」



6月22日(火)16:20~17:50

講師：吉原真里氏

ハワイ大学教授／アメリカ文化史、アメリカ＝アジア文化史、
アメリカ＝アジア関係史、ジェンダー研究

対象：本学の全学生（教職員の聴講も歓迎します）

日本でクラシック音楽は、多くの人たちの文化や生活のごく当たり前な一部となっている。しかし、世界的な文脈で見ると、日本人をはじめとするアジア人がクラシック音楽でこれほど活躍するようになったのは、特異な現象とも言える。アメリカ合衆国では、アジア人が人口全体で占める割合は 5% 程度であるが、ジュリアードやカーティスなどのトップレベルの音楽院の学生や、プロのオーケストラ団員の構成をみると、特にピアノやヴァイオリンでは半分以上がアジア人であることが少なくない。権威ある音楽コンクールの出場者や入賞者の顔ぶれを見ても、アジア人の割合は常に高い。

クラシック音楽においてアジア人がここまでの成功を収めるようになったのには、どのような背景や要素があるのか？ 「アジア人」であることと「クラシック音楽」を演奏したり作曲したりすることには、どのような関係があるのか？ 人種やジェンダー、社会階層といったカテゴリーは、音楽の実践においてどんな意味を持っているのか？ 「クラシック音楽」とは「西洋のもの」なのか？ 世界の変容とクラシック音楽界の流れはどのように連動しているのか、していないのか？

『「アジア人」はいかにしてクラシック音楽家になったのか？——人種・ジェンダー・文化資本』（2013）の著者が、本の刊行後のクラシック音楽界の変化や、#MeToo、Black Lives Matter 運動、コロナ禍におけるアジア人への暴力の急増などといった社会の流れも視野に入れて、「アジア人」と「クラシック音楽」の関係を語る。



【参加方法】 6月22日（火）正午までに Google フォームからお申し込みください。

<https://forms.gle/fWzXnoLSUqAGqqTW8>

登録されたメールアドレスに当日の zoom リンクおよびパスワードをお送りします。

主催・問合せ：グローバルサポートセンター globalsupport@ml.geidai.ac.jp